

平成 30 年度 山梨県南都留郡地域教育フォーラム提案書

第 4 分科会
山梨県立富士北稜高等学校
教諭 宮下 剛

「地域社会に密着した実践的な取り組み」

◎はじめに

富士北稜高校では、2016 年度入学生よりビジネス系列・情報系列が統合され、総合ビジネス系列が誕生した。そして、より専門的な知識を持った人材を育成するために、会計・情報・流通・観光という 4 つのコースに分かれることとなった。背景として、富士山世界遺産登録で郡内地域の観光客の増加により旅館・ホテルに従事する人間や、地域の歴史や風土に対して知識・関心を持ち、将来の郡内地域を担う人材を育てるためである。

今年度は、富士吉田市や NPO 法人かえる舎などと協定を結ぶなどして、地域社会に密着した実践的な取り組みを行っている。

◎今年度の活動

- (1) 富士吉田市ふるさと納税
 - ①観光プラン作成
 - ②ギフトカード作成
 - ③PR 動画作成
- (2) ペチカいちご

◎活動報告

- (1) 富士吉田市ふるさと納税

2017 年度富士吉田市と本校が地域振興及び人材育成に寄与するとともに富士吉田市と本校発展のため協定を提携した。その一つとして、産業、観光、まちづくり連携事業として、「市の観光」・ふるさと納税の返礼品をテーマに課題研究の授業で取り組むこととなった。

①観光プランの作成（観光コース）

富士吉田市役所より、高校生が企画するふるさと納税者対象の返礼ツアーの申し入れがあった。今回は本校の生徒がテーマからすべて考えて企画してもらいたいというものであった。

○ツアー作成の課題

- ①本校に通う生徒は富士吉田市だけではなく、富士河口湖町や忍野村、都留市などたくさんおり、富士吉田市のことを深く知らない。
- ②過去にどのようなツアーを富士吉田市が企画していたかを知らない。
- ③他県の方が富士吉田にどのような興味をもっているかがわからない。

問題を解決するために、まず富士吉田市に対して持っているイメージや観光名所を上げ

ていき共有をした。また、富士吉田市観光課の方に来ていただき、富士吉田の観光の問題点や現在の取り組みを伺った。また、その際に資料として過去のツアーの日程やアンケートを頂いて今回にツアーの参考にした。

○現在の状況

富士吉田市が主催するガバメントクラウドファンディングによる資金調達を考えており、その過程で当初1回の開催であったがトラストバンク・レディフォーという2社による10/20の日程で2回のツアー開催となった。協議の結果、1回目では富士吉田市の良さを多くの方々に知っていただくツアーを作り、2回目では高校生らしさを出していくために自分たちの興味を持った分野に対してコース分けしたツアーを作成することとなった。その後、トラストバンク側からの提案で第1回目のツアーに関してもバス2台を使用し、コースに分けてツアーを行うという提案を頂いた。

まず、18名の生徒を5班に分けそれぞれがテーマを元にコースを作成した。

その結果、

- ①ツアー参加者とともに吉田のうどんを作ろう
- ②明治末期から大正・昭和・戦後の時代の移り変わりを感じる事が出来る町並みを体感する月江寺散策
- ③富士山信仰や神社を学び、御朱印をもらう
- ④山梨県で1000年続いた伝統的な織物を体験してもらう機織り体験
- ⑤杓子山大権首（おおざす）峠登山に決定した。

7/4に富士吉田市役所・トラストバンク担当者・かえる舎の方々が来校し、各班へ対してのアドバイスを個別に行い、その後プレゼンテーションを行った。担当者との協議の中で、生徒や参加者がその中から参加したいと思ったものに対して投票し、得票の多かったものの2つを基本に第1回目のツアーを作成することとなった。

○今後の展望

現在はそれぞれの作成したコースや全体でのコース内容についての知識や実際に体験して参加者へのアテンドを行うための準備を行う。そのためのホスピタリティや接客の技術などを学習し、参加された方々が気持ちよく参加していただくよう連携をしっかりと取ることが重要だと思う。

クラウドファンディングトップ・地域・ふるさと納税：高校生とつくる富士吉田の魅力を伝える4つのモノ

ふるさと納税：高校生とつくる富士吉田の魅力を伝える4つのモノ

山梨県 地域 納税 寄付先 寄付先 寄付先 寄付先 寄付先



The screenshot shows a crowdfunding page for a project in Fujishiro City. On the left, there is a photo of a man and several students looking at a document. A yellow circle highlights the text 'ふるさと納税の返礼品に高校生と事業者の想いを込めて'. On the right, there is a summary table for the project.

富士吉田市	
寄附総額	135,000円
目標金額	1,000,000円
寄附者数	5人
残り日数	58日

寄附率: All-in

13%

このプロジェクトに寄附する
(※ログインが必要です)

このプロジェクトはAll in形式です。支援申し込み後のキャンセルはできません。目標金額に届いたら9月31日(金)午後11:00までに集まった金額がプロジェクト実行者に変更されます。

いいね! 101 シェア ツイートする B!ブックマーク 0

プロジェクト概要 新着情報 1 NEW 応援コメント 5

②ギフトカードの作成（流通コース）

流通コースは、富士吉田市ふるさと納税返礼品ギフトカードの作成を、課題研究の授業で行うことになった。

○流れ・内容

約30人いる生徒を、3人1組に分けて、1班あたり1事業者と割り振りを行った。

4月 昨年度の取り組みの説明を確認して、昨年度の良かった点・悪かった点の説明を受けて、今年度の目標・取り組み方法を決定しました。

5月 各班で事業者を調べ、事業者のことを理解し、取材する内容を決めました。（講師を招聴し取材することの要点を確認しました。）

6月 授業内での取材なので、簡潔に取材内容をまとめ、係分担を決め、生徒一人一人の役割分担を明確にしました。）3週に分けて取り組みました。

7月 取材した内容をパソコンや紙を使いまとめていきました。

8月以降 カード化・カード披露、発表

③PR動画の作成（情報コース）

情報コースでは、ふるさと納税専用サイト用のPR動画を作成する。今年度は山口養鱒場ミノルフラワー、舟久保織物、小林織物、鐘山苑の5事業所の動画作成を行う。

○活動内容 I

4月 担当事業所決定

5月 各事業所について調べ学習、取材にむけての準備

6月 取材

7月以降 動画編集ソフトの活用、編集

(2) ペチカいちご

富士北麓地域では、観光業と織物業が盛んである。農業分野においては地域野菜、果物等のブランド化が進んでいないのが現状であり、山梨県東部地域の持つ農業面でのポテンシャルを活かした地域活性化が行われていなかった。

夏秋収穫用のいちごであるペチカいちごをブランド化しようとしている富士山アグリファームから本校に申し出があり、「富士夏媛（ふじなつき）」をブランド化していくために協力していくこととなった。

○山梨県東部地域の持つポテンシャル

- ・長い日照時間
- ・寒冷な気候
- ・大消費地である東京に近い
- ・観光客が多い

以上ことを踏まえて最も適した作物は「夏イチゴ」である。夏イチゴ品種の中でも「ペチカほのか」が最も適している。

○ペチカほのかの特長

平成 28 年度に初めて市場に出た品種

- ・ 5 月下旬から 10 月末までに収穫できる麦秋イチゴ
- ・ 秀品率が高い (90%以上)
- ・ 1 株でたくさんの収穫ができる
- ・ 糖度は 16 度以上までになり、夏秋イチゴとしてはとても甘い

活動記録①

2 月 14 日：苗植え作業



活動記録②

3 月 28 日：苗をビニールハウスに移し替える作業



活動記録③

4月24日：ランナーを切る作業



活動記録④

5月29日：苗を作る作業



活動記録⑤

6月14日：富士夏媛収穫祭（オープニングセレモニー）



ペチカほのかの品種のことや、特徴などを知ることができた。また、イチゴを育てるとい
う貴重な体験をさせてもらえていろいろと勉強になった。富士夏媛が山梨の名産になり、
多くの人に食べてもらえるように、山梨にもっとたくさんの観光客が訪れるようになった
らいいと思う。これから、富士夏媛をブランドとして成長させていくためにできることを
模索していきたい。

◎おわりに

今年度よりそれぞれの活動がスタートした。ふるさと納税は11月12月が最盛期となる
のでそれまでにより良いものを作成していきたい。ペチカいちごについては加工品として
の商品化などについても提案していきたい。実学を通して、作りだすことの難しさを学び、
地域社会の一員として地域貢献をしていきたい。